



教訓
繪入

日賣鑑

紀行十五

1028
27



口 9
1028
27



比賣鑑紀行卷第十八

紀行第十八目録

弟橘媛 日平紀

和梅童女君

上瓦野形名妻 同上

去肥実年妻

副将乳母

仏生判官母 太平記

那須五郎母 同上

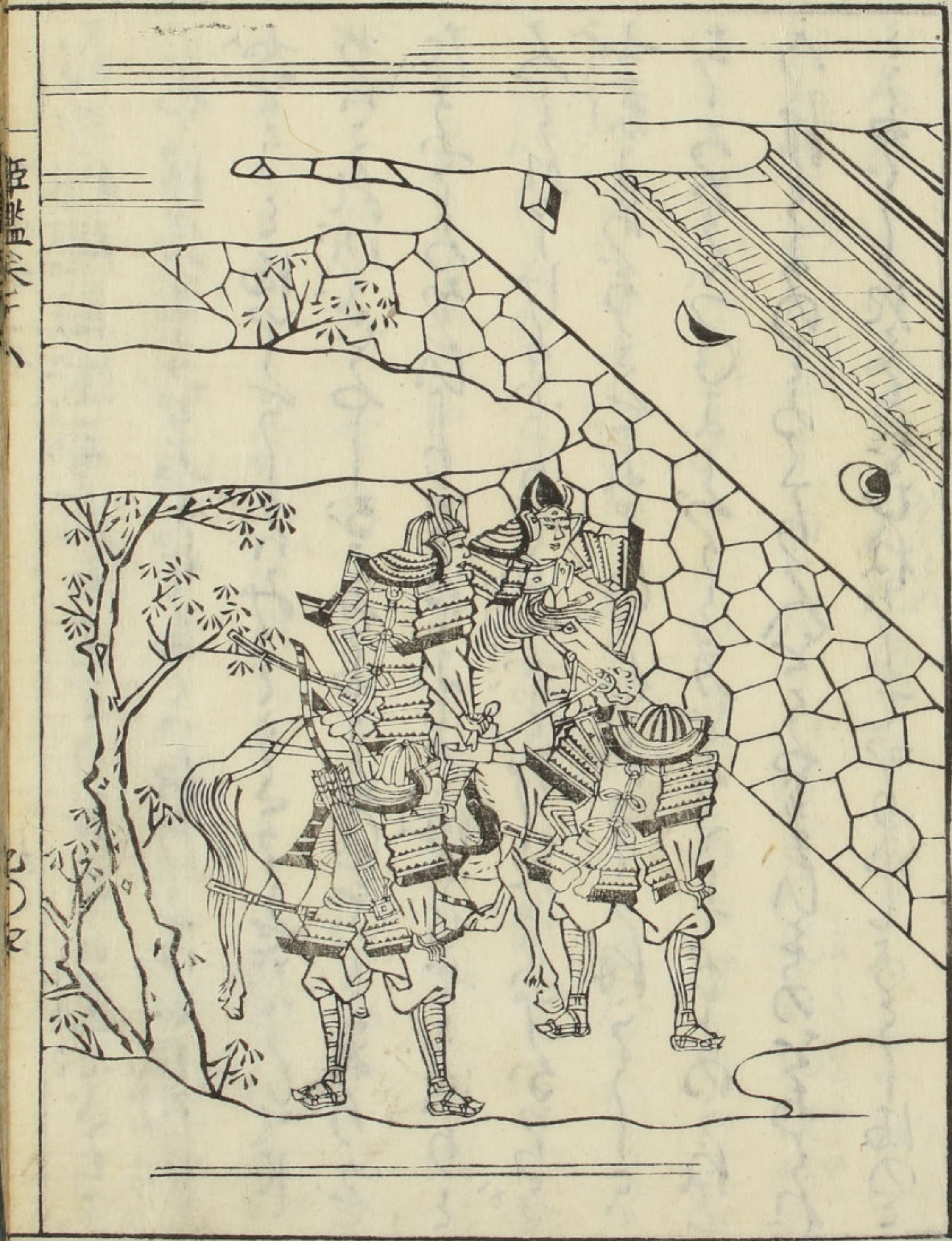
松田お監妻

比賣鑑紀行

比

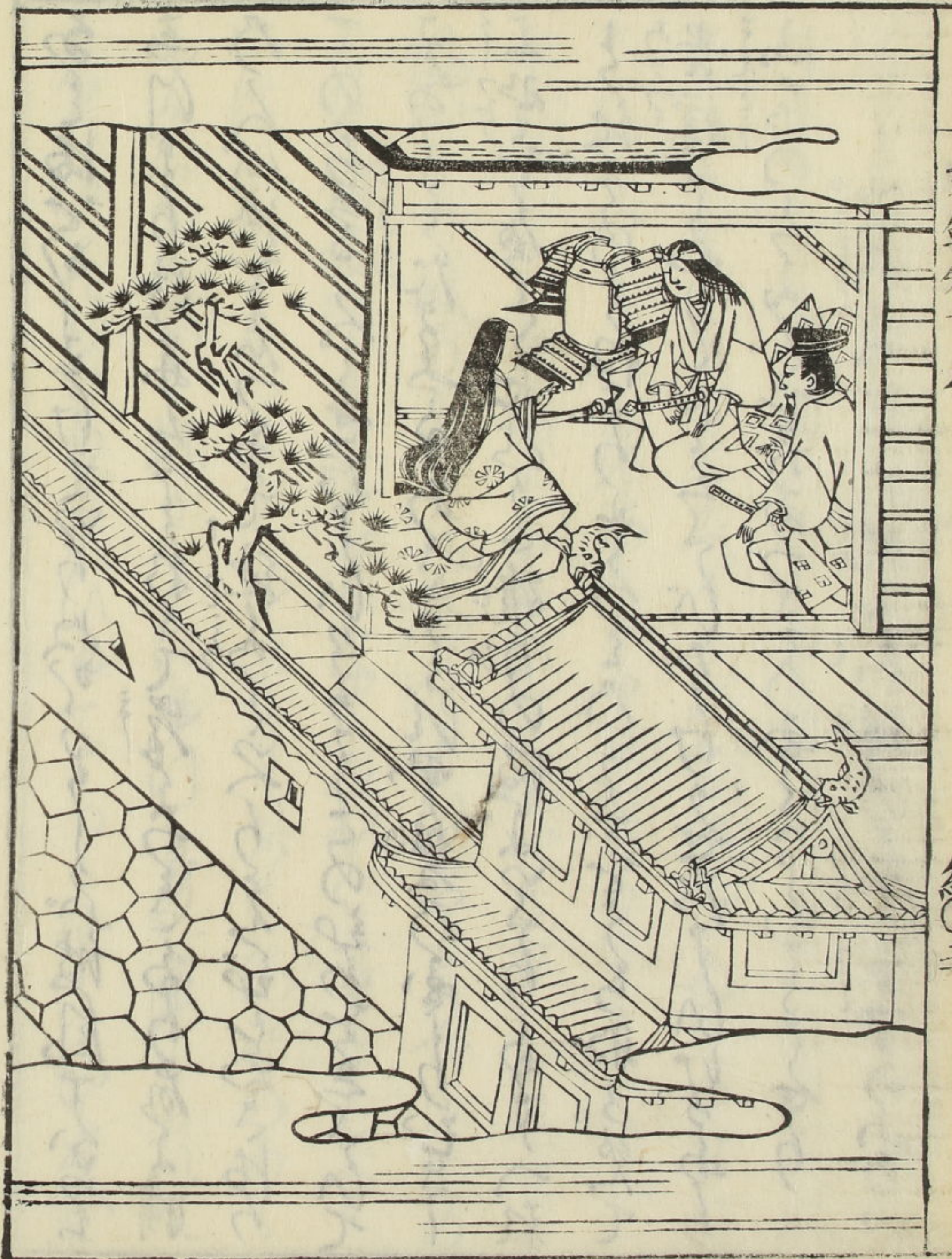
くりそれより後河のまよひてりて凶賊どもら
 海一あふまよお換乃ましり毎は流りて上流のまへた
 一りてんまてまらんらにさ流づきまわつた
 ましむらいらいさ流まららどりてまらぬた
 とささ一てころしあひくらふおさ中まてあつた
 風おくり波あがりて流きたくしむらあわじり
 とは捕獲^{たつらひら}ゆとのふさきらぐすみおくさるま
 け波風かききたくおぼくどまらぬ海神^{うみかみ}のあ
 ゆらんあかべし縁ぐるい海のまがと流りつれて
 君のぬれらとあがなひもてよろんせつひまおど

めと海とがまけてりぬがりては波風すか
 高のまりゆあまらわけてるまつてありあは時
 乃人い海とあつめて絶^{とつた}あまらりまらぬとわ
 てのちさるるせなまらりてこのまらぬとわ
 うあまらなまらあまらるる甲斐^{あひ}ならまらりて
 上流^{うりう}とあまらぬれまら確^{たつた}日の海よりありあ
 とはまらぬまらりまらるるまららぬらぬら
 昔^{むかし}まらぬまららるるまらけをせたらぬいけ
 山^{やま}のまらぬまらあづまらるるまららぬまら
 け確^{たつた}明^{あきら}天^{あま}のれまら海^{うみ}のまらまららぬまら



大鐘巻上

三

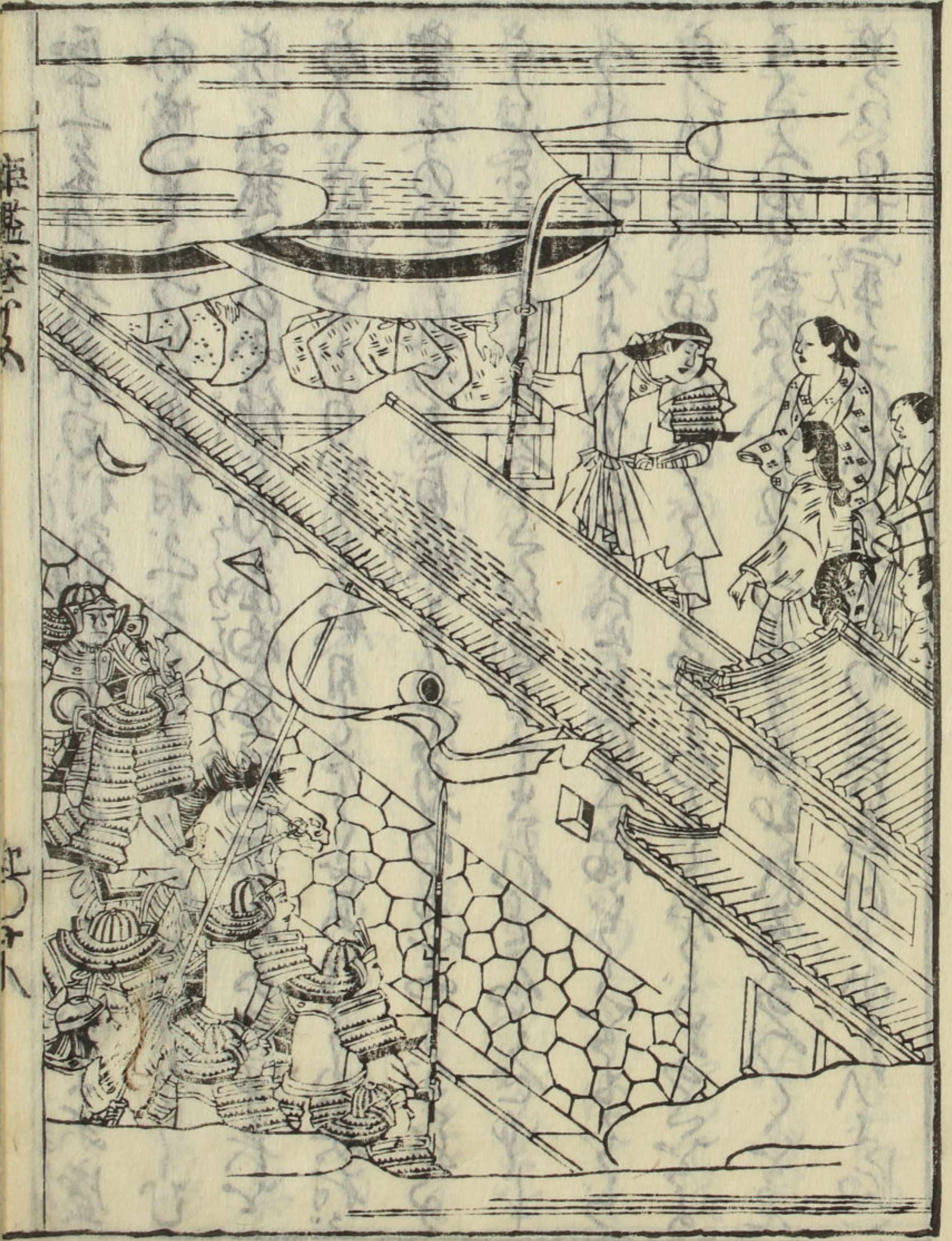


大鐘巻上

三



歌對のこころをいかにしむるにまはるるはしりてあはれ
 よしりていかにしむるにまはるるはしりてあはれ
 もらひていかにしむるにまはるるはしりてあはれ
 しりていかにしむるにまはるるはしりてあはれ
 も歌うていかにしむるにまはるるはしりてあはれ
 なまらんとていかにしむるにまはるるはしりてあはれ
 を城の中をいかにしむるにまはるるはしりてあはれ
 ゆきよきいかにしむるにまはるるはしりてあはれ
 津あよきいかにしむるにまはるるはしりてあはれ
 加賀のいかにしむるにまはるるはしりてあはれ



津渡り

七

